令和4年度　学校関係者評価書

鈴鹿市立鈴峰中学校

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	1 授業改善 ・ 全教員の研究授業の実施 ・ 鳴門教育大学との連携事業を活用した「わかる授業づくり」の取組 2 基礎学力の向上 ・ 習熟度別授業（1，3年数学）の実施 ・ 家庭学習定着の取組 ※全国学調・みえスタ平均以上 ※ 「学校の先生は自分たちにわかりやすく授業を工夫してくれる」90% （成果と課題） ※全国学調は数学・理科は全国平均以上，国語は2ポイント低かった。みえスタでは2年が全教科県平均以下となった。 ※「学校の先生は授業を工夫してくれる」96% 〇習熟度別授業の効果は表れている。 △課題である「書くこと」は改善傾向にあるものの，表現することは難しい。 〇時間割上に教科部会を位置づけたことで，授業について話し合う時間が確保され，授業改善につながった。 △全教員の研究授業は，公開する教員以外の授業参観が難しい。 〇家庭学習時間は全国と比較して高い状態にあるが，引き続き取組が必要である。	・生徒アンケートから授業改善が進んでいる様子がうかがえる。満足していない生徒についても，より満足度が上がるよう，更に取り組んでほしい。 ・習熟度別授業は成果を上げているものの，実施していない学年もある。全学年で次年度以降も実施できるとよい。	・ 生徒の表現力を高められるよう，授業改善を行っていく。 ・ タブレットの活用によって，更なる家庭学習の定着を図る。 ・ 引き続き校内研修，研究授業を通して，ICTの効果的な活用方法について研究する。
ＩＣＴの活用	授業での1人1台端末活用推進 ・ ICT支援員を活用した研修会の実施 ・ 研究授業の実施 ※「授業で生徒によく端末を使わせている」80% （成果と課題） ※「授業で生徒によく端末を使わせている」80% 〇ICT支援員を講師とした研修会の実施以降，生徒に授業で端末を活用させる場面が増加し，新たな活用方法を試みる教員も増えた。 〇研究授業でも端末を活用し，その効果を事後検討会で協議した。 △家庭での端末の活用に課題がある。 △端末の管理に課題がある。 △学力の向上，学習内容の理解の向上を目的とした活用を図る必要がある。	・ 現代の生徒は機器を活用する能力が高い。今後の生活においてもICT機器の活用は非常に大切なものとなるので，十分な指導をしてほしい。 ・ コロナ禍や気象状況等で，やむなく登校できない生徒に対するオンライン授業の配信は有効な活用方法であるが，現状では配信状況が効果的とは言えない。今後の改善に期待したい。	・ 情報モラル教育を推進し，適切なICT活用について指導する。
不登校	1 新たな不登校を生まない生徒指導の取組 ・ 教員と生徒との関係構築と「生徒承認活動」の推進 2 SCや関係機関と連携した不登校対策 ・ 校内ケース会議の開催 ※「先生はあなたの良いところを認めてくれる」95% （成果と課題） ※「先生は良いところを認めてくれる」93.1%（昨年度比微減） 〇教員は「いいとこみつけ」の活用によって，生徒の良さを見ようと意識している。 △担任，教科担任の枠を超えて全教員で全生徒に関わることが必要である。 〇長期欠席生徒に対して早期に校内会議を開催し，改善が見られた例がある。 〇SCとの連携によって，保護者支援，本人支援へとつながった例がある。	・ 改善例もあるが，不登校生徒の割合が高いことは課題である。生徒数が少なく，人間関係が固定化してしまうという地域の特徴が影響している可能性もある。それぞれの要因に応じた対応が必要である。 ・ 登校刺激を与えることについて，迷う保護者も多いと考えられる。生徒の状況を見極めることが必要である。 ・ 生徒承認活動については，何年も取り組んできた成果が表れていると言える。	・ ケース会議等で個々の生徒の不登校の要因を検討し，対応を考える。 ・ 居心地のよい学級集団づくりに取り組む。 ・ 不登校生徒への対応について，正しい知識とスキルを身に付けるための研修を実施する。
地域連携	1 家庭学習の定着 ・ 校区で連携した家庭学習強化週間の設定 2 9年間を見通した教育活動の展開 ・ 校区拡大学校運営協議会の開催 ※「1時間＋学年×30分」の家庭学習定着率70% （成果と課題） ※家庭学習強化週間において目標の学習時間を達成した生徒60% △スクリーンタイムが非常に長いことが校区全体の課題である。 △期間中の調査について更なる家庭との連携が必要である。 △使用している計画表の見直しが必要である。 〇拡大学校運営協議会を開催し，地域づくり協議会の取組を知るとともに，校区全体で児童生徒の課題や地域連携について交流することができた。 〇人権フォーラムに学校運営協議会委員の参加を得た。	・ 引き続き家庭との連携を深めてもらいたい。 ・ 学校運営協議会の委員にもメール配信があり，学校の状況を把握することができたため，地域での見守りを十分に行えた。 ・ 学校運営協議会主催の除草作業では，環境が美しく整っていくうれしさを実感できた。子どもたちにもこうした気持ちを味わわせてやりたい。 ・ 学校内外で挨拶できる生徒が多い。地域，学校ともにこの良い習慣を大切にしていきたい。 ・ 生徒とふれあう機会を大切にしながら，地域住民として成長を見守りたい。	・ 校区での共通取組を更に推進する。 ・ 生徒の活動の様子を見ていただく機会を増やす。
人権教育	いじめのない集団作り ・ 人権学習の充実 ・ 校区人権フォーラムの開催 ※いじめを見たり聞いたりしたときに，やめるように言ったり誰かに伝えたりすることができる　90%以上 （成果と課題） ※いじめをやめるように言ったり伝えたりできる　86.3%（前年度比7%減） △学年が上がるにつれ肯定的回答が減少している。 〇人権フォーラムでは，児童生徒，教員，地域住民がそれぞれ意見を出し合い，活発な議論が行われた。 △いじめや問題の発生時こそ，教員が組織的に対応する必要がある。	・ 児童生徒と人権フォーラムで語り合えたことは大変意義深かった。コロナ禍でもあるが，今後広い会場を確保し，多くの委員に参加してもらってもよいのではないか。 ・ 生徒が楽しく来れる学校づくりに期待したい。 ・ 生徒たちが将来にわたって常に相手を思う気持ちを持っていくための取組をお願いしたい。	・ 人権フォーラムは今後も学校運営協議会委員の方々に参加を呼びかける。 ・ 人権学習では，本校のいじめ事案に沿った内容の学習を計画的に実施する。 ・ 誰にとっても安心できる学級集団作りに取り組む。